

**製品名:** シナプトタグミンウサギポリクローナル抗体

**カタログ番号:** APRab18495

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	50kDa

## 抗原情報

遺伝子名	SYT1/SYT2
別名	SYT1; SVP65; SYT; Synaptotagmin-1; Synaptotagmin I; SytI; p65; SYT2; Synaptotagmin-2; Synaptotagmin II; SytII
遺伝子 ID	6857/127833
SwissProt ID	P21579/Q8N9I0
免疫原	抗血清はヒトシナプトタグミン由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 276-325

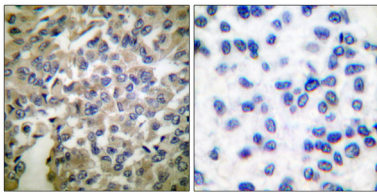
## 背景

シナプトタグミンはシナプス小胞の膜貫通タンパク質であり、小胞輸送およびエキソサイトーシスの過程において Ca(2+)センサーとして機能すると考えられています。シナプトタグミン-1 へのカルシウム結合は、シナプスにおける神経伝達物質放出の誘発に関与しています (Fernandez-Chacon et al., 2001 [PubMed 11242035])。[OMIM 提供、2010年7月],補因子: サブユニットあたり3個のカルシウムイオンを結合します。イオンはC2ドメインに結合します。ドメイン: 最初のC2ドメインは、Ca(2+)依存性のリン脂質結合を媒介します。ドメイン: 2番目のC2ドメインは、SV2AおよびSTN2との相互作用を媒介します。機能: シナプスの活性領域におけるシナプス小胞輸送中の膜相互作用において、調節的な役割を果たす可能性があります。酸性リン脂質に特異的に結合するが、その結合には酸性ヘッドグループとジアシル骨格の両方が必要となる。シナプトタグミンと活性化プロテインキナーゼCの推定受容体との間のCa(2+)依存的な相互作用も報告されている。Ca(2+)非依存的に少なくとも3つの追加タンパク質(ニューレキシン、シンタキシン、AP2)に結合することができる。類似性: シナプトタグミンファミリーに属する。類似性: 2つのC2ドメインを含む。細胞内局在: シナプス小胞およびクロマフィン顆粒。サブユニット: ホモ四量体(推定)。SCAMP5、STN2、SV2A、SV2B、SV2C、RIMS1と相互作用する。SV2B、シンタキシン1、SNAP25と複合体を形成する。

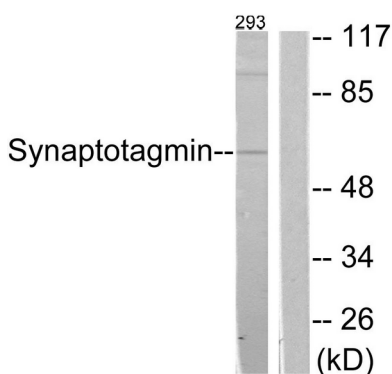
## 研究分野

神経科学; 神経伝達; 分泌小胞; Munc18; 細胞接着タンパク質; ECMタンパク質; 細胞タイプマーカー; ニューロンマーカー; シナプスマーカー; がん; がん代謝; 代謝シグナル伝達経路; エネルギー代謝の統合; 代謝; 経路とプロセス; 代謝シグナル伝達経路; エネルギー伝達経路; エネルギーの統合; 疾患の種類; がん

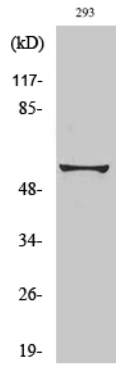
## 画像データ



シナプトタグミン抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



フォルスコリン 40nM 30μL 処理した 293 細胞ライセートの、シナプトタグミン抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000 希釈のシナプトタグミンポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析